

令和2年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立工業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析（結果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
<p>1 生徒の主体的で協働的な学びを支援し、思考力や表現力、コミュニケーション能力の育成に努めるとともに、学習の成果を的確に評価することに努める。（学びのスタンダード）</p>	<p>① 県工学びのスタンダードを活用し、かつ学校研究の成果の拡充・継承を目標とすることにより、創意工夫されたわかりやすい授業を実践する。</p>	<p>教務課 各教科</p>	<p>「県工 Thinking time」などを通して、根拠をもとに論理的に発言したり、記述したりすることができるようになったと回答する生徒の割合で判断する。 A 70%以上 B 60%～70%未満 C 50%～60%未満 D 50%未満 [改定]</p>	<p>（教務課・各教科）最終評価（ B ） 前期の66%から後期は3%下がって63%であった。前年同期と比較すると2ポイントの減である。今年度は「R80」の取り組みが一部の教科で定着しつつあり、効果も上がっているが教科によって偏りがあると思われる。また、工業各科ではレポートの提出が常であるため、生徒が自分の行っていることを「論理的思考や記述」と認識していない部分も見られる。「R80」の取り組みを共通科目でさらに推進することで偏りのない取り組みとしていくことが大切である。</p>
	<p>② 生徒の主体的な学習を促し、学習の定着を目指す。</p>	<p>教務課 各教科</p>	<p>予習・復習及び課題や資格取得に向けた学習等に取り組むことができたかどうかを、生徒対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満 [継続]</p>	<p>（教務課・各教科）最終評価（ A ） 「できた」が32%、「ややできた」が48%で合計80%であった。今年度は資格試験の中止が多く、資格試験に向けての取り組みが生徒としては不満が残るものとなったようである。それにもかかわらず、評価がAとなったのは、各教科の予習・復習課題プリントを積極的に活用した効果であると思われる。 次年度は、資格試験も安定的に開催されることが見込まれるので今年度よりも評価が上がるものと思われる。</p>
	<p>③ 教師個人及び各教科にて積極的に主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善に取り組み、新しい授業づくりに挑戦する。</p>	<p>教務課 全教員</p>	<p>生徒が主体的に活動することを意識して授業を行っているかどうかを、教師対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満 [改定]</p>	<p>（教務課・全教員）最終評価（ A ） 「している」が41%、「ややしている」が54%で合計95%である。新型コロナ感染防止対策のため、ペアワークやグループワークが制限されたものの先生方の適切な対応と工夫がみられる結果となった。 次年度は、コロナ禍の中のノウハウを生かし、さらに新しい試みと工夫を期待したい。</p>
	<p>④ 授業の情報化推進の一環として、ICT機器の活用を促進し、学力の定着が実感できる授業を目指す。</p>	<p>学習情報課</p>	<p>ICT機器の活用等により授業が工夫されていると回答する生徒の割合で判断する。 A 70%以上 B 60%～70%未満 C 50%～60%未満 D 50%未満 [継続]</p>	<p>（学習情報課）最終評価（ A ） 「先生はICT機器を効果的に活用した授業をしている」という項目に「当てはまる」「おおむね当てはまる」と解答した生徒は合わせて74%となり、中間報告時より6ポイント上がってA評価となった。今年度はプロジェクターとスクリーンがすべての普通教室に導入され、予備のプロジェクターも新たに2台加わった。先生方の積極的な活用が生徒にも評価されていると思われる。今後はICTの活用例を公開したり、DVD・動画ライブラリーを充実させるなどしてさらなる授業改善に役立てていきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、これまでと異なる環境の中でも先生方がご尽力され、ご指導にあられたということについて、敬意と感謝を示したい。 ・生徒および保護者のアンケート結果から、予習・復習を全くしない、あまりしない生徒がかなりの人数に上っている。家庭での学習習慣をしっかりと身に付けさせてほしい。 ・アンケートではどうしても自己評価が甘くなり、生徒と先生との間に認識のギャップがある。結果をフィードバックしながらそのギャップを埋めていくことが生徒や先生の成長につながる。 ・校内研究授業の取組はうまく機能しているようで、大変良い。 			
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上や主体的・協働的に学ぶ力を育成するため、学校研究を継続して推進していく。 ・授業の予習・復習や資格検定試験対策等において、Google for Educationのさらなる有効活用を図り、家庭学習を促進させる。 ・アンケートの結果を生徒にフィードバックし、主体的に学習に取り組む態度の養成を図る。 			

令和2年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立工業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2 規範意識やマナーの向上の取組を通して、将来の職業人として高い意識を持った生徒を育成する。(人間力スタンダード)	① 校訓を掲げることにより、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的生活習慣を身につけた生徒を育成する。	生徒指導課 各学年	日頃、生徒がしっかりと挨拶を行っているかどうかを、教師対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 【改定】 A 80%以上 B 60%～80%未満 C 40%～60%未満 D 40%未満	(生徒指導課・各学年)最終評価(A) 「思う」が20%、「やや思う」が60%、合計80%でA評価を得た。一方、生徒のアンケートでは96%の生徒が挨拶をしていると回答している。 確かに生徒は挨拶を行っているが、それは先に教師が挨拶をしているからであって、決して生徒が積極的に挨拶を行っているのではない。生徒と教師の差が大きいのは、ここが原因だと思われる。まずは運動部が挨拶の励行を実践し、リーダー的立場で学校を引っ張り、挨拶の輪を広げていこう工夫していきたい。
			遅刻者数(実人数)減少の割合で判断する。【改定】 A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	(生徒指導課・各学年)最終評価(D) 遅刻者数は、2月末現在で538人(昨年390人)と昨年同時期に比べ大幅に増加している。昨年度は暖冬で雪があまり降らなかったが、今年度は雪の量が多く、公共交通機関が遅延したため、特に1月に遅刻者数が急増した。次年度は、改めて早めの登校を促すとともに、時間厳守の重要性をしっかりと指導していきたい。
	① 周辺美化活動や除雪作業等のボランティア活動や県工ものづくりワールド等の地域との交流活動を通して地域に貢献する意識を育てる。	総務課	生徒が活動に積極的に取り組んだかどうかで判断する。 【継続】 A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	(総務課)最終評価(-) 今年度は、コロナウイルス感染拡大防止のため、全日程を中止した。周辺美化活動は、1、2年生で実施する行事であるが、これまで一度も活動できなかったことが残念である。次年度は積極的に活動できることを願いたい。
	② 交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。	生徒指導課 学年団	違反指導件数(累計)減少の割合で判断する。 【継続】 A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	(生徒指導課・学年団)最終評価(A) 石川県警察本部より毎月送られてくる自転車違反指導件数は、2月末現在で21件(昨年86件)と昨年度同時期と比較すると違反件数は激減している。しかし交通事故では、交差点での接触事故件数がすでに16件(昨年16件)と相変わらず多い。最近では、自転車でも高額な賠償金を請求される時代である。交通ルールを遵守し、安全に自転車を利用するように指導していきたい。
	③ いじめの早期発見・早期対応に向け、気になる情報についてはすみやかに共有し、組織的な対応を行う。	生徒指導課 全職員	教員相互の頻繁な情報交換により、問題を未然に防ぐことができていると思うかについて、教師対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 【改定】 A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	(生徒指導課・全職員)最終評価(B) 学校評価アンケート「教員相互間の頻繁な情報交換により、問題を未然に防ぐことができている」と回答した教員が39%(昨年42%)、「ややできている」が45%(昨年49%)で、肯定的評価の割合は84%であった。教師間で生徒の情報を共有し、組織的対応を行い、きめ細かい指導を心掛けていきたい。
	学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時休業で生活のリズムが乱れ、遅刻の増加につながっていると思われる。学校として地道な対策をお願いしたい。 ・3年生が年度後半に遅刻が増える傾向については、やむを得ない面もあると思う。 ・いじめに関する相談は、言いたくも言えないということがあるかもしれないので、匿名で相談するシステムがあってもよいのではないか。 		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻について、学年別に傾向を分析し、学年集会やホームルーム等を通じて、繰り返し地道に指導を行っていく。 ・社会人として必要な規範意識の高い生徒の育成のため、挨拶の励行や規範意識・マナーについても粘り強く指導をしていく。 ・学科、学年、部活動との連携を強化し、教師間で生徒の情報を共有しながら、今後もきめ細かい指導を行っていく。 			

令和2年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立工業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析（結果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3 専門的技術の習得をはじめ、資格取得や検定、コンテストに意欲的に取り組み、確かな進路実現を図る。 （技能スタンダード）	① 就職希望者が100%内定するとともに、第1社目受験での進路実現を図る。	進路指導課 3年学年団	就職希望者が1社目受験で内定した割合で判断する。 [継続] A 90%以上 B 85%～90%未満 C 80%～85%未満 D 80%未満	（進路指導課・3年学年団）最終評価（A） 学校推薦155名のうち、1回目で内定した者は148名、不採用は7名であった。（内定率96%）県内企業は130名が受験し、3名が不採用、県外企業は25名が受験し、4名が不採用であった。とりわけ、県外大手はコロナ禍による求人倍率の上昇で、不採用数が増加した。その後、再受験の結果、就職希望者全員の内定が決まった。（最終内定率100%）
	② 生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。	工業7学科 教務課	認定者数（特別表彰+ゴールド+シルバー）で判断する。 [改定] A 70名以上 B 60名～70名未満 C 50名～60名未満 D 50名未満	（教務課・工業7学科）最終評価（—） 今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、いくつもの資格試験の実施が中止となったため、評価なしとする。 最終的には、特別表彰3名、ゴールド24名、シルバー15名、合計42名が認定されている。（昨年度は、特別表彰8名、ゴールド40名、シルバー22名、合計70名）
	③ 全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。	工業7学科	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会]の場合は、大会出場の難易度で判断する。 [継続] A 全国大会でベスト16以上の成績であった B 全国大会に出場した C ブロック大会で入賞した D 県大会で入賞した	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会]（工業7科）最終評価（—） ものづくりコンテスト、ロボット競技大会等の各種の大会がすべて中止となったため、評価なしである。ただし、ものづくりコンテストの旋盤作業部門においては、代替大会として石川県研修競技会が1月下旬に行われ、出場した本校の2名の選手が1位、2位を占めた。次年度は、全国大会レベルまでの成長を期待したい。また、その他の中止になった大会についても、次年度の県大会優勝を目指し、早期に準備を図っていきたい。
工業7学科		[地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会]の場合は、出場した全国大会の成績で判断する。 [継続] A 全国大会でベスト8以上の成績であった B 全国大会でベスト16以上の成績であった C 全国大会で初戦突破した D 全国大会に出場した	[地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会]（工業7科）最終評価（—） 昨年度本校が全国優勝を成し遂げた全国ソーラーラジコンカーコンテストが中止となった。今年度出場を予定していたソーラーカーをさらに改良し、来年度の全国制覇につなげていきたい。	
工業7学科		各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。 [継続] A 全国レベルのコンテスト等で入賞 B 全国レベルのコンテスト等で入選 C 県レベルのコンテスト等で入賞 D 県レベルのコンテスト等で入選	各種コンテスト、コンクール（工業7科）最終評価（A） ・令和2年度明るい選挙啓発ポスター（中央審査）文部科学大臣・総務大臣賞 ・同（中央審査）公益財団法人明るい選挙推進協会会長・都道府県選挙管理委員会連合会会長賞 ・令和3年度愛鳥週間ポスターコンクール（中央審査）入選 ・2020年度第9回全国高校生ファッションデザイン画コンテスト グランプリ ・ステューデント・ファッション・デザインコンテストきものデザインの部中央区長賞	
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・就職に関して、次年度はコロナ禍で採用状況が一層厳しくなることが予想されるので、現2年生への対策をしっかりとってほしい。 ・大学では就職活動はほとんどオンラインである。高校においてもオンラインに対応する指導が必要になると思われる。 ・電験3種の取得は大学生でも難しい試験であり、大変素晴らしい。 			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の採用状況が厳しくなることを想定し、用意周到に就職支援を行っていく。 ・資格取得に向けた指導体制を強化し、次年度はA評価を目指す。 ・コンテストやコンクールに向けた指導を充実させ、生徒の能力を引き出し、進路実現につなげる。 ・各種コンテスト・コンクールを担当するベテラン教員の指導のノウハウを後輩教員に伝承する取り組みを実施し、成績の維持向上を図る。 			

令和2年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立工業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
4 学校行事や部活動等を通して、粘り強くたくましい体力と精神力及び周囲と協働する意識や社会性を培う。	① 活発な部活動を通して、加入率と成果の更なる向上に努める。	生徒会課	部・同好会活動に意欲的に取り組んでいるかどうかを生徒対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 [改定] A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満 県総体の成績等で判断する。(個人・団体あわせて) [継続] A 全国大会5部以上出場または総体順位男子2位以内 B 全国大会3部以上出場または総体順位男子4位以内 C 全国大会1部以上出場または総体順位男子6位以内 D 総体順位男子6位以下	(生徒会課)最終評価(A) 「取り組んでいる」「やや取り組んでいる」の合計の割合は、中間時より6%減少したが81%であった。多くの生徒が部・同好会活動に意欲的に取り組んでいる。一方で、部・同好会活動に目標を見失いつつある生徒の存在も推察される。部・同好会活動の目的や目標を顧問と生徒間で共有し、生徒が意欲を持って活動を続けるよう働きかけていきたい。
	② 学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切に、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。	生徒会課	保護者の目から見て生徒が学校の行事に満足していると回答する割合で判断する。 [継続] A 95%以上 B 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満	(生徒会課)最終評価(A) 今年度は、行事の中止や多くの制限がある中での実施であったが、96%の保護者の方が満足していると回答し高評価であった。今後も、状況によっては行事の中止や、様々な条件下での行事の実施になるが、生徒が積極的に取り組めるようにしていきたい。
	③ 歯科保健指導を通し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。	保健課	歯科受診済の生徒の割合で判断する。 [継続] A 30%以上 B 25%～30%未満 C 20%～25%未満 D 20%未満	(保健課)最終評価(D) 「受診結果のお知らせ」は検診後と保護者懇談時に配付し、保健だより等で受診について再三保健指導をしてきた。しかし、歯科検診が終了したのが10月末であったことや、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、歯科医院へ受診や通院しにくい状況であったことから、受診率向上できず、2月末現在、学校全体の受診率は8.5%と低い。今後も感染症流行の状況をみながら、歯の健康や歯科医院受診につながるよう、引き続き保健指導していきたい。
5 教職員が相互に業務を点検・改善し、教育の質を落とすことなく組織的で効率的な業務の在り方を探る。	① 校務分掌ごとに業務の重複を点検し整理に努めることで、多忙化を改善する。	各科・学年・各課	定時退校日を半分以上達成している教員の割合で判断する。 [改定] A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満	(各科・学年・各課)最終評価(C) 定時退校日を半分以上達成している教員の割合は、一斉の定時退校日が54%、個別の定時退校日が73%、平均64%でC評価となった。7月時点より達成の割合が約5%低下しているが、6月の学校再開以降、校務分掌や部活動で学校に残っている先生が増加したためであると思われる。今後、業務内容や進捗状況の可視化、ICTを活用した仕事の効率化、業務の役割分担の工夫などにより、さらなる業務改善に取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事が縮小され、卒業アルバムの写真に苦労されていないかが心配である。 ・コロナ禍の中で、学習以外にも修学旅行や運動会を工夫して実行していただいで感謝したい。 ・修学旅行で複数のコースを練り直したと思われる。その労力は大変であったと思う。 ・本校に入学してよかったと思うかについてのアンケートで「思う」「やや思う」が合わせて90%以上あるのはとても素晴らしいことである。 			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動や学校行事等の課外活動をとおして、粘り強くたくましい体力と精神力及び多様な人々と協働することのできる社会性を培う。 ・コロナ禍で制限のある状況下であっても、様々な工夫を凝らし、可能な限り学校行事を進めていく。 ・保健指導を充実させ、生徒が自身の健康問題への関心を高め、自ら積極的に解決していこうとする態度の育成を図る。 ・ICTを活用した仕事の効率化、業務の役割分担の工夫などにより、さらなる業務改善に取り組み、定時退校日の達成率を上げていく。 			